

【タイトル】 人生と税

江東区立第三亀戸中学校にて租税教室
青年部会

【日 時】 平成 26 年 2 月 20 日

【場 所】 江東区立第三亀戸中学校

【概 要】

人は生まれてこのかた、税金をいくら納めるかについて関心はあっても、税金によってどれほどの恩恵を受けてきたのかについて考えることは少ない。

人生において人は色々な出来事を経験する。入学、就職、病気や怪我（順調なときばかりではない）、相続・・・。

実に様々なことが起こり、その多くに税金が密接に関係している。義務教育を離れ、人生の新たな一歩を踏み出そうとする中学3年生に、人生と税金の関わりを自らの人生と重ねつつ紹介した。



生徒たちに感じて欲しかったのは、幼い頃には税金に多大の恩恵を受け、成人して納める側になり、やがて再び恩恵を受ける循環であることと、何より受ける恩恵の大きさだ。日本人は大震災を経験した。今も厳しい生活を余儀なくされている人々の心の支えは復興への希望と思う。私たちの税金は使い方によって希望という恩恵にもなる。そんな税金の大切さについて改めて考えてもらった。



同時に中学生たちに問うたのは、税金を納める義務を忠実に果たす国民になるだけで良いのかということだ。日本の財政を立て直すのは経営と同じく「入るを量りて出るを制す」しかない。生徒たちからは、そのためには「国会議員を減らす」「増税する」「輸出を増やす」といった意見が出る。



もの申す有権者、もの申す納税者になろう。税を通して日本をより良い国にしていく(法人会もそのために存在する)。中学3年生の心に少しでも響いてくれたらだろうか。(佐)